

長周期波を対象とした直立消波構造物の開発

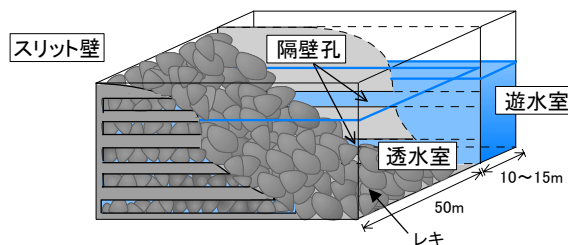
池野 勝哉¹⁾, 熊谷 隆宏¹⁾, 森屋 陽一¹⁾, 大島 香織¹⁾, 関本 恒浩¹⁾

Development of Upright Wave-Dissipating Structure for Long-waves

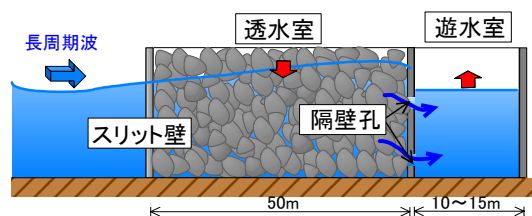
Katsuya Ikeno¹⁾, Takahiro Kumagai¹⁾, Yoichi Moriya¹⁾, Kaori Ooshima¹⁾ and Tsunehiro Sekimoto¹⁾

■ 要 旨 ■

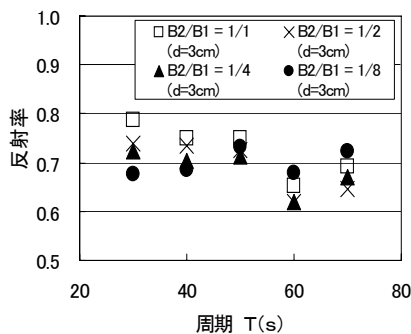
多くの港湾において、周期1分程度の長周期波が係留船舶動揺等の問題を引き起こしており、その対策が工学的な課題となっている。著者らは対策の一つとして、港内長周期波の反射を低減させる消波構造物を開発した。開発した消波構造物は、前面がスリット壁でレキ材が投入された透水室とその背後に遊水室を設けた2室で構成されており、隔壁に設けられた隔壁孔により両室間の海水移動が可能となっている。本研究では、開発した構造物の消波性能を水理模型実験にて評価し、数値波動水路による数値実験で消波構造物の最適な断面を検討する。また、モデル港湾を対象に消波構造物の消波性能を確認し、最適なレイアウトの設定方法の提案を行う。



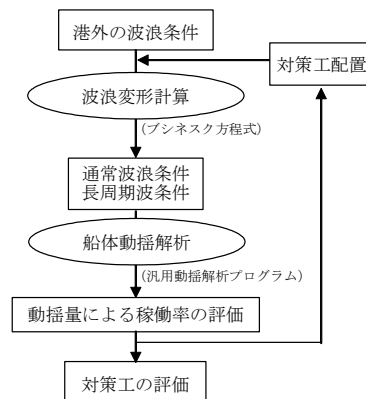
消波構造物の立面図



消波構造物の断面図



反射率



長周期波対策工評価フロー